

北海道立正学園 旭川実業高等学校

『創立者を偲ぶ日』にあたって

創立者 **堀水孝教先生** の生涯

☆ 堀水孝教先生

明治33年（西暦1900年）11月7日、山梨県南巨摩郡身延町に生まれる。

山梨師範学校、立正大学専門部高等師範科等に学び、本州での教員生活を経て、昭和15年渡道。旭川市立中学校（現・旭川北高校）の創立に伴い教員として赴任。以後教員としての生涯を全うする。

- 昭和22年に旭川市立女子商業学校長となり、歌志内高等学校長、増毛高等学校長、津別高等学校長を歴任し、59歳で退職。

- 公立高校での教師生活を通じて、公立学校での教育の限界を感じた先生は、多くの同志の要請を請け、自分の理想とする教育、様々な規制にとらわれずに一人ひとりの生徒の個性・能力を十分に引き出すための思い切った実践のできる教育の実現を目指して私立高校の設立を決意し、準備を開始。

- 特に財産もない一公立学校退職校長が、新たに一つの高校をつくることの困難さは、現在高等学校を作るとしたらどれくらいのお金がかかるか、ということを考えてみただけでも容易に想像できるであろう。

- 高等学校創立には当時のお金で最低5千万円を必要とした（当時の大学卒業者の初任給は7千円程度で、現在の約30分の1）が、当然全財産を投げうっても到底足りるものではなく、その殆どは借金に頼らざるを得なかった。金策に奔走したが、どうしても3千万円が不足し、思い余って母校の立正大学を尋ねて借金を申し込む。

- 当時の立正大学学長・石橋湛山先生（後の内閣総理大臣）は、「成功して母校に寄付を申し出る卒業生は多いが、借金の申し込みに来た卒業生は君が初めてだ」と呆れながらも、その意気と理想に共鳴し、出資を約束してくださる。

- こうした苦難の船出ではあったが先生の理想は大きかった。僅か入学生160名でのスタートであるにもかかわらず、将来の発展を信じて現在の広大な校地を購入（これも借金）。ただちに現在の本館校舎と第一体育館の建設に着手した。この時、先生は満60歳。普通なら悠々自適の余生を楽しむ年代であった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

- ☆ 堀水孝教先生の人生は、まさに『生涯青春』であり続けた人生である。『青春』とは単に年齢的なことを指すのではない。15、16歳の、若者と言われる年代にありながら、既に夢を忘れて成り行きに委せて過ごすような日々を、『青春時代』と言うだろうか。堀水孝教先生は、医師に再起不能とまで言われた幾度かの病魔にも、決してくじけることなく立ち向かって奇跡的な回復を遂げ、平成2年4月27日にその90年の生涯を閉じる最後の最後の時まで、行く手の夢を語り続けたのである。

- ☆ このような堀水孝教先生の生涯は、『青春とは何か』という問いの答えであり、『旭実魂』の原点ある。そしてその精神は『不撓不屈』『為せば成る』の教えとなり、旭実生の勇気の源となって受け継がれているのである。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

- ◎ 旭川実業高等学校は、創立者・堀水孝教先生に感謝し、生誕の日を記念して11月7日を『創立者を偲ぶ日』としている。この世に生を受けた私たちはこの日にあたって、旭川実業高等学校の一員としての自らを心静かに顧み、一人ひとりが『生涯青春』であり続けるような人生を目指す決意を新たにしたい。